

令和 7 年度横須賀市地方公営企業

決 算 審 査 意 見

第 1 審査の種類

決算審査（地方公営企業法第30条第 2 項の規定に基づく審査）

第 2 審査実施の期間

令和 8 年 6 月 1 日から同年 8 月 10 日まで

第 3 審査の対象

令和 7 年度横須賀市水道事業会計決算

令和 7 年度横須賀市公共下水道事業会計決算

令和 7 年度横須賀市病院事業会計決算

上記各会計決算に関する事業報告書、キャッシュ・フロー計算書、収益費用明細書、固定資産明細書及び企業債明細書

第 4 審査の主な着眼点

審査に付された各会計の決算その他関係書類が関係法令に準拠して作成されており、その計数が正確であり、事業の経営成績、財政状態及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているか。また、予算執行が適正に行われたか。

各公営企業が事業の経済性を発揮し、公共の福祉を増進するように運営されたか。

第 5 審査の実施内容

横須賀市監査基準に準拠し、総勘定元帳その他の会計帳票及び関係証書類との照合その他必要と認めた審査手続を実施した。

なお、各公営企業が事業の経済性を発揮し、公共の福祉を増進するように運営されたかの検討に当たっては、事業の経営分析を行った。

第 6 審査の結果

審査に付された各会計の決算その他関係書類は関係法令に準拠して作成されており、その計数は正確であり、事業の経営成績、財政状態及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認められた。また、予算執行は適正に行われていると認められた。

事業の運営面についてみると、各公営企業ともに企業の経済性を発揮し、本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されていると認められた。

主要な経営指標等の推移

I 水道事業

水道事業の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
経 営 成 績	営業収益	8,912,515	9,005,274	9,097,495	9,174,526	9,043,988
	営業利益又は 営業損失(△)	538,435	△5,883	21,582	100,050	△113,102
	経常利益	1,267,336	862,675	904,955	951,798	670,664
	当年度純利益	1,258,118	809,328	905,933	876,722	636,376
	繰入金を除いた 当年度純利益	1,248,468	799,058	896,399	866,533	624,747
財 政 状 態	資産合計	100,978,877	100,853,427	102,499,956	103,607,102	104,728,259
	資本金	57,730,555	58,442,389	59,175,221	59,762,059	61,025,613
	資本合計	64,118,695	64,928,023	65,833,957	66,710,681	67,347,057
	自己資本構成比率	78.5%	78.8%	78.0%	77.6%	77.0%
	1年超滞納未収金	12,365	13,320	14,150	13,692	14,747
	不納欠損額	790	1,034	2,726	3,601	2,091
	企業債年度末残高	18,524,866	18,511,503	19,054,726	19,333,146	20,155,730
	企業債利息	119,716	94,213	82,217	79,069	84,656
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	3,844,871	3,984,662	4,002,720	3,892,239	3,469,420
	投資活動による キャッシュ・フロー	△ 5,183,415	△ 3,789,139	△3,732,595	△4,359,725	△5,448,649
	財務活動による キャッシュ・フロー	490,217	△13,363	543,222	278,420	822,584
	資金期末残高	4,707,549	4,889,709	5,703,056	5,513,991	4,357,346
そ の 他	建設改良費	6,268,612	4,919,796	4,705,289	5,634,278	5,779,726
	一般会計繰入金	9,650	13,471	9,534	10,189	11,629
	職員数	170人	168人	165人	160人	152人

- (注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純利益は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

営業収益は、給水人口の減少や節水型社会の定着などの影響により給水収益が減少したことや、前年度に計上していた能登半島地震応急復旧費用負担金の皆減によりその他営業収益が減少したことなどから、前年度に比べて1億3,053万円（1.4%）減少し、90億4,398万円となった。

営業損失は、営業収益が減少したことに加え、管路維持管理業務委託の開始による委託料の増や鉛給水管取替工事の増などにより営業費用が増加したため、営業利益を計上していた前年度から2億1,315万円（213.0%）減少し、1億1,310万円の営業損失に転じた。

経常利益は、営業損失となったことに加え、水道利用加入金の減などにより営業外収益が減少したことなどから、前年度に比べて2億8,113万円（29.5%）減少し、6億7,066万円となった。

当年度純利益は、経常利益が減少したことなどにより、前年度に比べて2億4,034万円（27.4%）減少し、6億3,637万円となった。

繰入金を除いた当年度純利益は、前年度に比べて2億4,178万円（27.9%）減少し、6億2,474万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、現金預金などの流動資産が減少したものの、配水管更新工事を進めたことによる構築物等の資産増加に伴う有形固定資産の増により、前年度に比べて11億2,115万円（1.1%）増加し、1,047億2,825万円となった。

資本合計は、当年度純利益を計上したことなどにより、前年度に比べて6億3,637万円（1.0%）増加し、673億4,705万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて105万円（7.7%）増加し1,474万円となった。

企業債年度末残高は、物価高騰の影響もあり企業債の借入額が償還額を上回ったことにより、前年度に比べて8億2,258万円（4.3%）増加し、201億5,573万円となった。

企業債利息は、借入利率の上昇により、前年度に比べて558万円（7.1%）増加し、8,465万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローは、前年度に比べて業務活動で4億2,281万円減少し、投資活動で10億8,892万円減少し、財務活動で5億4,416万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて11億5,664万円（21.0%）減少し、43億5,734万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に安定給水を図るため経年化した配水管の耐震性能を備えた管への更新工事を実施したことなどにより、前年度に比べて1億4,544万円（2.6%）増加し、57億7,972万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて144万円（14.1%）増加し、1,162万円となった。

職員数は、前年度に比べて8人減少し、152人となった。

Ⅱ 公共下水道事業

公共下水道事業の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
経 営 成 績	営業収益	8,877,462	8,664,815	8,956,540	9,500,904	9,456,387
	営業利益又は 営業損失(△)	△4,130,107	△4,804,942	△4,734,351	△4,378,632	△4,592,893
	経常利益	693,129	247,167	359,688	775,078	554,722
	当年度純利益	648,673	280,450	372,884	770,178	557,257
	繰入金を除いた 当年度純利益又は 当年度純損失(△)	△1,584,151	△1,748,149	△1,484,936	△1,543,561	△1,755,250
財 政 状 態	資産合計	229,324,707	225,841,676	222,510,100	221,929,415	218,377,484
	資本金	18,490,859	19,469,869	20,118,543	20,398,994	20,771,878
	資本合計	41,503,073	41,784,314	42,157,725	42,934,616	43,491,887
	自己資本構成比率	67.0%	67.5%	67.8%	67.9%	68.0%
	1年超滞納未収金	13,071	13,029	14,959	14,412	15,099
	不納欠損額	2,662	2,397	2,938	2,989	2,707
	企業債年度末残高	73,706,701	71,256,959	68,272,914	66,167,735	65,367,284
	企業債利息	664,063	527,962	437,968	368,234	366,136
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	4,195,189	3,112,885	4,078,323	3,793,960	3,718,143
	投資活動による キャッシュ・フロー	△3,415,361	△2,503,995	△1,622,748	△1,182,965	△3,840,746
	財務活動による キャッシュ・フロー	△2,620,649	△1,084,070	△1,560,440	△439,630	△426,661
	資金期末残高	1,583,331	1,108,150	2,003,285	4,174,651	3,625,386
そ の 他	建設改良費	3,246,100	6,190,116	4,767,159	6,578,413	6,147,468
	一般会計繰入金	3,701,500	3,569,194	3,604,861	4,118,217	2,790,362
	職員数	130人	128人	127人	120人	120人

- (注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純利益又は当年度純損失は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

営業収益は、他会計負担金や下水道使用料の減少などにより、前年度に比べて4,451万円（0.5%）減少し、94億5,638万円となった。

営業損失は、営業収益が減少したことに加え、機械及び電気設備等の小破修繕の増などによる修繕費の増などにより営業費用が増加したため、今年度も損失を計上するとともに、前年度より2億1,426万円（4.9%）増加し、45億9,289万円となった。

経常利益は、営業損失が増加したことなどにより、前年度に比べて2億2,035万円（28.4%）減少し、5億5,472万円となった。

当年度純利益は、経常利益が減少したことなどにより、前年度に比べて2億1,292万円（27.6%）減少し、5億5,725万円となった。

繰入金を除いた当年度純損失は、前年度に比べて2億1,168万円（13.7%）増加し、17億5,525万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、主に有形固定資産の減少などにより、前年度に比べて35億5,193万円（1.6%）減少し、2,183億7,748万円となった。

資本合計は、当年度純利益の計上に伴い当年度未処分利益剰余金が増加したことなどにより、前年度に比べて5億5,727万円（1.3%）増加し、434億9,188万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて68万円（4.8%）増加し1,509万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の償還額が借入額を上回ったことにより、前年度に比べて8億45万円（1.2%）減少し、653億6,728万円となった。

企業債利息は、企業債未償還残高の減により、前年度に比べて209万円（0.6%）減少し、3億6,613万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローは、前年度に比べて業務活動で7,581万円減少し、投資活動で26億5,778万円減少し、財務活動で1,296万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて5億4,926万円（13.2%）減少し、36億2,538万円となった。

(4) その他

建設改良費は、経年化した施設の機能強化を目的とした管渠施設の耐震化等工事などを実施したものの、前年度からの繰越工事等の減少により、前年度に比べて4億3,094万円（6.6%）減少し、61億4,746万円となった。

一般会計繰入金は、一般会計繰入金に代えて借り入れた資本費平準化債が増加したことなどにより、前年度に比べて13億2,785万円（32.2%）減少し、27億9,036万円となった。

職員数は、前年度と同数の120人となった。

Ⅲ 病院事業

病院事業の最近５事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
経 営 成 績	医業収益	683,495	684,558	697,240	685,579	655,405
	医業利益又は 医業損失（△）	△5,742,454	△3,375,967	△817,323	△1,193,300	△1,823,952
	経常利益又は 経常損失（△）	125,584	110,506	67,148	△855,128	△1,254,145
	当年度純利益又は 当年度純損失（△）	115,099	110,506	21,118	△895,493	△1,266,925
	繰入金を除いた 当年度純利益又は 当年度純損失（△）	△885,900	△888,493	△977,881	△1,894,493	△2,269,925
財 政 状 態	資産合計	18,362,779	17,493,379	21,978,368	39,259,195	38,091,537
	資本金	12,765,956	12,765,956	12,989,956	13,224,477	13,496,477
	資本合計	10,475,133	10,585,639	10,830,758	10,169,785	9,174,859
	自己資本構成比率	61.1%	64.4%	52.1%	27.3%	25.4%
	１年超滞納未収金	4,336	3,177	3,070	3,014	2,983
	不納欠損額	86	1,018	2	5	39
	企業債年度末残高	3,740,189	4,528,695	10,312,547	27,820,052	28,283,764
	企業債利息	31,696	29,650	40,626	136,837	184,972
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	1,715,205	29,915	387,372	△270,891	1,742,851
	投資活動による キャッシュ・フロー	△584,476	△1,206,467	△5,724,079	△17,024,075	△1,014,437
	財務活動による キャッシュ・フロー	△347,724	788,506	6,007,167	17,717,712	689,690
	資金期末残高	4,292,234	3,904,188	4,574,649	4,997,395	6,415,499
そ の 他	建設改良費	524,272	1,358,079	6,290,412	18,357,542	1,063,144
	一般会計繰入金	1,001,000	999,000	1,223,000	1,233,521	1,275,000
	職員数	13人	13人	13人	9人	6人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純利益又は当年度純損失は、当年度純利益又は当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本金収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝（資本合計＋繰延収益）／総資本
5 職員数は市職員数であり、指定管理者の職員は含まれていない。

【当年度の概要】

(1) 経営成績

市民病院及び総合医療センター（以下「両病院」という。）は、公益社団法人地域医療振興協会を指定管理者とする指定管理者制度（利用料金制）を導入している。

医業収益は、市民病院では増加し、総合医療センターでは減少した。事業合計では前年度に比べて3,017万円（4.4%）減少し、6億5,540万円となった。

医業損失は、市民病院では減少し、総合医療センターでは増加した。事業合計では前年度に比べて6億3,065万円（52.8%）増加し、18億2,395万円となった。

経常損失は、市民病院が1億8,710万円を計上し、総合医療センターが10億6,703万円を計上した。事業合計では前年度に比べて3億9,901万円（46.7%）増加し、12億5,414万円となった。

当年度純損失は、市民病院が1億9,109万円を計上し、総合医療センターが10億7,582万円を計上した。事業合計では前年度に比べて3億7,143万円（41.5%）増加し、12億6,692万円となった。

繰入金を除いた当年度純損失は、前年度に比べて3億7,543万円（19.8%）増加し、22億6,992万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、市民病院では増加し、総合医療センターでは減少した。事業合計では前年度に比べて11億6,765万円（3.0%）減少し、380億9,153万円となった。

資本合計は、両病院とも減少した。事業合計では前年度に比べて9億9,492万円（9.8%）減少し、91億7,485万円となった。

1年超滞納未収金は、市民病院では減少し、総合医療センターでは増加した。事業合計では前年度に比べて3万円（1.0%）減少し、298万円となった。

企業債年度末残高は、両病院とも増加した。事業合計では前年度に比べて4億6,371万円（1.7%）増加し、282億8,376万円となった。

企業債利息は、両病院とも増加した。事業合計では前年度に比べて4,813万円（35.2%）増加し、1億8,497万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローは、前年度に比べて業務活動で20億1,374万円増加し、投資活動で160億963万円増加し、財務活動で170億2,802万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて14億1,810万円（28.4%）増加し、64億1,549万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に総合医療センター建設に係る新市立病院建設事業費が皆減したことにより、前年度に比べて172億9,439万円（94.2%）減少し、10億6,314万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて4,147万円（3.4%）増加し、12億7,500万円となった。

職員数は、前年度に比べて3人減少し、6人となった。

1 市民病院

市民病院の最近 5 事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
経 営 成 績	医業収益	413, 409	415, 352	405, 709	244, 017	267, 336
	医業利益又は 医業損失 (△)	△2, 790, 013	△1, 960, 214	△375, 753	△386, 030	△343, 830
	経常利益又は 経常損失 (△)	64, 068	46, 103	△4, 467	△201, 100	△187, 106
	当年度純利益又は 当年度純損失 (△)	60, 022	46, 103	△50, 497	△201, 100	△191, 096
	繰入金を除いた 当年度純利益又は 当年度純損失 (△)	△559, 977	△571, 896	△644, 497	△595, 100	△576, 096
財 政 状 態	資産合計	7, 182, 368	6, 688, 632	6, 213, 664	5, 978, 541	6, 254, 327
	資本金	9, 970, 356	9, 970, 356	10, 089, 356	10, 208, 356	10, 327, 356
	資本合計	4, 327, 188	4, 373, 292	4, 441, 794	4, 359, 694	4, 287, 597
	自己資本構成比率	62. 8%	67. 9%	73. 7%	74. 9%	70. 0%
	1 年超滞納未収金	3, 336	3, 052	2, 967	2, 900	2, 859
	不納欠損額	5	163	0	0	8
	企業債年度末残高	1, 355, 015	1, 306, 808	1, 541, 769	1, 445, 946	1, 822, 492
	企業債利息	16, 564	15, 193	14, 689	16, 719	16, 723
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	361, 154	543, 510	475, 973	153, 569	274, 035
	投資活動による キャッシュ・フロー	△279, 652	△221, 352	△426, 336	△365, 239	△458, 175
	財務活動による キャッシュ・フロー	△178, 106	△48, 207	353, 276	23, 384	485, 702
	資金期末残高	762, 118	1, 036, 069	1, 438, 983	1, 250, 698	1, 552, 261
そ の 他	建設改良費	269, 912	242, 864	468, 903	135, 048	638, 453
	一般会計繰入金	620, 000	618, 000	713, 000	513, 000	504, 000
	職員数	3 人	3 人	3 人	3 人	3 人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純利益又は当年度純損失は、当年度純利益又は当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本金収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝（資本合計＋繰延収益）／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

医業収益は、主に一般会計からの繰入金である他会計負担金の増により、前年度に比べて2,331万円（9.6%）増加し、2億6,733万円となった。

医業損失は、固定資産除却費の減などによる資産減耗費の減少や給与費の減少などにより医業費用が減少し、医業収益が増加したため、前年度に比べて4,220万円（10.9%）減少し、3億4,383万円となった。

経常損失は、医業外収益が減少したものの医業損失が減少したため、前年度に比べて1,399万円（7.0%）減少し、1億8,710万円となった。

当年度純損失は、旧太田和医師公舎・看護師宿舎の土地に係る減損損失により特別損失を計上したものの、経常損失の減少に伴い、前年度に比べて1,000万円（5.0%）減少し、1億9,109万円となった。

繰入金を除いた当年度純損失は、前年度に比べて1,900万円（3.2%）減少し、5億7,609万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、建物などの有形固定資産の増により固定資産が増加し、現金預金の増により流動資産が増加したため、前年度に比べて2億7,578万円（4.6%）増加し、62億5,432万円となった。

資本合計は、資本金が一般会計からの出資金により増加したものの、当年度純損失により欠損金が増加したため、前年度に比べて7,209万円（1.7%）減少し、42億8,759万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて4万円（1.4%）減少し、285万円となった。

企業債年度末残高は市民病院西棟外壁改修工事等に係る企業債借入額が償還額を上回り、前年度に比べて3億7,654万円（26.0%）増加し、18億2,249万円となった。

企業債利息は、企業債未償還残高の増により、前年度に比べて0.3万円（0.0%）増加し、1,672万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローは、前年度に比べて業務活動で1億2,046万円増加し、投資活動で9,293万円減少し、財務活動で4億6,231万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて3億156万円（24.1%）増加し、15億5,226万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に市民病院西棟リハビリ系統ほか空調設備改修工事に伴う建物改修費が増加したことにより、前年度に比べて5億340万円（372.8%）増加し、6億3,845万円となった。

一般会計繰入金は、主に高度医療で採算をとることが困難な経費等に係る繰入金が減少したことにより、前年度に比べて900万円（1.8%）減少し、5億400万円となった。

職員数は、前年度と同数の3人であった。

2 総合医療センター

総合医療センターの最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
経 営 成 績	医業収益	270,086	269,206	291,531	441,561	388,068
	医業利益又は 医業損失(△)	△2,952,441	△1,415,753	△441,569	△807,270	△1,480,121
	経常利益又は 経常損失(△)	61,515	64,402	71,616	△654,028	△1,067,039
	当年度純利益又は 当年度純損失(△)	55,077	64,402	71,616	△694,393	△1,075,828
	繰入金を除いた 当年度純利益又は 当年度純損失(△)	△325,922	△316,597	△333,383	△1,299,393	△1,693,828
財 政 状 態	資産合計	11,180,411	10,804,746	15,764,703	33,280,654	31,837,210
	資本金	2,795,600	2,795,600	2,900,600	3,016,121	3,169,121
	資本合計	6,147,945	6,212,347	6,388,963	5,810,090	4,887,262
	自己資本構成比率	59.9%	62.3%	43.6%	18.8%	16.6%
	1年超滞納未収金	999	124	103	113	124
	不納欠損額	81	854	2	5	30
	企業債年度末残高	2,385,173	3,221,886	8,770,777	26,374,105	26,461,271
	企業債利息	15,132	14,456	25,937	120,118	168,249
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	1,354,050	△513,594	△88,601	△424,460	1,468,815
	投資活動による キャッシュ・フロー	△304,823	△985,115	△5,297,743	△16,658,835	△556,261
	財務活動による キャッシュ・フロー	△169,617	836,713	5,653,890	17,694,327	203,987
	資金期末残高	3,530,116	2,868,119	3,135,665	3,746,696	4,863,237
そ の 他	建設改良費	254,360	1,115,214	5,821,508	18,222,493	424,691
	一般会計繰入金	381,000	381,000	510,000	720,521	771,000
	職員数	10人	10人	10人	6人	3人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純利益又は当年度純損失は、当年度純利益又は当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本
5 職員数については、3年度から5年度までの職員数のうち7人、6年度の職員数のうち3人は、総合医療センター専従の資本勘定職員である。

【当年度の概要】

(1) 経営成績

医業収益は、主に一般会計からの繰入金である他会計負担金の減により、前年度に比べて5,349万円（12.1%）減少し、3億8,806万円となった。

医業損失は、医業収益が減少し、医療機械等の償却資産の増などによる減価償却費の増により医業費用が増加したため、前年度に比べて6億7,285万円（83.3%）増加し、14億8,012万円となった。

経常損失は、主に指定管理者負担金の増などにより医業外収益が増加したものの、医業損失の増加により、前年度に比べて4億1,301万円（63.1%）増加し、10億6,703万円となった。

当年度純損失は、固定資産売却損が皆増し特別損失を計上した結果、前年度に比べて3億8,143万円（54.9%）増加し、10億7,582万円となった。

繰入金を除いた当年度純損失は、前年度に比べて3億9,443万円（30.4%）増加し、16億9,382万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、主に建物等の減価償却に伴う固定資産の減少や、消費税及び地方消費税還付額等の未収金の減による流動資産の減少により、前年度に比べて14億4,344万円（4.3%）減少し、318億3,721万円となった。

資本合計は、資本金が一般会計からの出資金により増加したものの、当年度純損失により利益剰余金が減少したため、前年度に比べて9億2,282万円（15.9%）減少し、48億8,726万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて1万円（9.7%）増加し、12万円となった。

企業債年度末残高は、企業債借入額が償還額を上回り、前年度に比べて8,716万円（0.3%）増加し、264億6,127万円となった。

企業債利息は、企業債未償還残高の増により、前年度に比べて4,813万円（40.1%）増加し、1億6,824万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローは、前年度に比べて業務活動で18億9,327万円増加し、投資活動で161億257万円増加し、財務活動で174億9,034万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて11億1,654万円（29.8%）増加し、48億6,323万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に総合医療センター建設に係る新市立病院建設事業費が皆減したことにより、前年度に比べて177億9,780万円（97.7%）減少し、4億2,469万円となった。

一般会計繰入金は、主に特殊医療で採算をとることが困難な経費に係る繰入金が増加したことにより、前年度に比べて5,047万円（7.0%）増加し、7億7,100万円となった。

職員数は、総合医療センター専従の資本勘定職員の減により、前年度に比べて3人減少し、3人となった。

